

市町村教育委員会と県教育委員会との懇談会の開催結果について

教育総務課

1 趣 旨

長野県教育委員会が重点的に取り組む教育課題について、市町村教育委員会との共通理解や相互の認識を深め、相互の連携を強化するとともに、教育の新たな課題を把握し的確に対応するため、各地域ごとに懇談会を開催する。

2 開催日程

- (1)東信教事管内:2会場(平成23年7月12日(火)午前:佐久、午後:上小)
- (2)南信教事管内:3会場(平成23年7月19日(火)午前:諏訪、午後:上伊那)
(平成23年8月2日(火)午後:飯伊)
- (3)中信教事管内:3会場(平成23年7月25日(月)午後:木曾)
(平成23年7月22日(金)午前:大北・安曇野、午後:松塩筑)
- (4)北信教事管内:2会場(平成23年7月26日(火)午前:長野、午後:北信)

3 出席者

【市町村教育委員会】 教育委員長、教育長等

【県教育委員会】教育委員、教育長、教育次長、教育事務所長、関係課(室)長等

4 開催概要

- (1)あらかじめ設定したテーマによる協議
 - ・中学校30人規模学級編制について
 - ・学力・体力向上について
- (2)県からの施策説明等
 - ・第2次長野県教育振興基本計画の策定方針について
 - ・災害安全教育の充実について
 - ・その他

※市町村教育委員会からの主な意見は別紙のとおり

市町村教育委員会からの主な意見

教育総務課

| 協議事項等 | 主な意見・提案・要望 |
|------------------|--|
| 中学校30人規模学級編制について | <p>【導入校の状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校(30人規模学級)の延長としての活気ある授業が出来ている。 ・保護者から「非常に有難い、来年度も2年生に拡大して欲しい。」との声が多い。 ・教職員からは「昨年までに比べてやり易い」、「教室がゆったりしていて、机間指導等も出来る」という声を聞く。 ・教室の後ろに空きがあり、参観日に保護者が入れる。中1ギャップからくる不登校の数は大幅に減っていると思われる。 ・学級増に対する担任の増だけで、専科連動の教員加配が無くて、教員の持ち時間数はむしろきつくなっている。 |
| | <p>【導入後の課題等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に教員が30人規模の良さを本当に理解して、今までにない指導方法をしっかりやっていないと効果が無いと思う。今までも授業改善をやってきたが思うようにいかない現実があった。 ・教師自身が少人数学級の良さを具体的指導でどう示すか、その点を押さえるべき。 |
| | <p>【活用方法選択型教員配置事業(選択型こまやか教育プラン)の今後の方針について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の成果を確かなもの出来るように、是非来年度以降、学年進行による中学2年、3年への拡大をして欲しい。 ・早期(10月頃まで)に導入の方向が示されれば、導入について、中学校とタイアップをしながら検討していきたい。(今年度見送った市町村) ・少人数学級の導入に関して、県教委側から首長に対して協力を求めているような、何らかの形でアピールして頂くと、市町村教委が市町村レベルで予算の折衝をしていく上で非常に助かる。 ・中学校を拡大する影響で、小学校の少人数学習集団編成や特別支援等でいただいている教員加配が無くなると非常に小学校が困難になる。 ・こまやか教育プランが既に各学校の中に位置づいている中で、それを無くす、削減していくのはかなり負担になる。 ・専科教員も含めて増やしてもらいたい。 ・新学習指導要領の内容増加分(英語の授業時数増加等)を前提に加えて議論していくべき。 ・現に学級が10人前後のところでは教師の目が届いて学力が向上しているのかと言われると、必ずしもそうではない。教師自身の問題など様々な課題はある。 ・現場とタイアップして、30人規模学級に踏み切った効果をより現実的に個々の子どもたちに返していくことが大切である。 ・2年生、3年生への拡大を願っているが、何よりもまず1年生にしっかり定着させることが前提である。 |
| | <p>【教員の資質等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30人規模学級に関わらず、教員の資質が問題。その部分を同時に考える必要がある。 ・教員のコミュニケーション能力によって学級運営の良し悪しが決まる。 ・教師一人ひとりの指導力を伸ばしてもらおう教員研修の大事さ、また、力のある先生を配置していただくということが非常に重要である。 |

【校長・教師の取組姿勢について】

- ・学力向上・体力向上とも校長が変わると取組が変わってしまい、継続性・他教科等への広がりが無いのが課題。
- ・校長と教職員との風通しの良さが子どもたちに与える影響が大きい。
- ・教師の意識の問題。学力テストの結果が、県内全体として全国比較で低いからといっても、自校だけでは仕方がないという意識ではなくて、自分たちが今教えている子どもたちのために、自分たち自身が教え方を研究していく姿勢をもってほしい。
- ・学校を回ってみて、校長のリーダーシップが欠けていると思うケースが多い。組織をどうまとめるかということがいかに重要かということを学んでほしい。
- ・学力向上は、基本的には教師の力をどう高めるかということ。いろいろな方法を取り入れながら教師の力量を高めていきたい。
- ・教師の中で、非常に積極的に取り組んでいる先生とそうでもない先生とが存在する。そこがこれからいろいろな意味で問題となるのではないか。

【指導方法等について】

- ・日々の授業で子どもたちにいかに課題意識をもたせるか。そこを工夫するのが教師の力量、教師の仕事。それがあれば、子どもたちは自然に探究を始める。
- ・学力を高めていくということから言えば、ひとつは授業改善、もうひとつは家庭での学習を求めるということがあって良いのではないか。
- ・授業力を向上させるには、昔のような職人技ではなくて、システムにしていく必要がある。
- ・子ども一人一人が学級への所属感、満足感を得られるような生徒指導をするとともに、個別学習を支援することが全体的な底上げになるのではないか。
- ・危機意識をもっている学校は、課題に対して真剣に取り組んでいる。そのため職員会議を止めるとか、行事の見直し等をして、子どもと向き合う時間をまず確保して、最低30分は放課後に復習の時間を確保するとか、教師がゆとりをもって子どもに対応できるよう課題意識をもって取り組んでいる。
- ・教育の目的が、人を育てるとか生きる力を育むとかということよりも、テストの点数を取ることに目的化している、されている心配がある。
- ・学力向上策の基本は3つある。1つはやる気、学習意欲を引き出す。2つ目は理解に時間のかかる子に手を入れること。3つ目は具体的な生活習慣、学習習慣を身に付けさせること。
- ・全国学力・学習状況調査の結果を見て残念だったのは、白紙解答が多かったことで、テストに向かわせる教師の姿勢が気になる。

【家庭学習について】

- ・小中ともドリル学習の継続と家庭学習が足りないということが課題。家庭生活への働きかけに取り組んでいる。
- ・学力向上のために家庭学習が上手く結びついていないのではないか。家庭学習を進めてきた学校は着実に伸びている。
- ・伸びる子を伸ばすには、ある程度家庭学習をしっかりとさせないといけない。理解が十分でない生徒に合わせて宿題を出すと伸びる子が伸びない。

| 協議事項等 | 主な意見・提案・要望 |
|-------|--|
| | <p>【体力向上について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスが自宅の前まで来るようでは子どもに体力はつかないが、人家がまばらでイノシシもサルも出没するところを歩いて通わせられないという親の心配もある。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模中学校は教科を全部賄える体制がないという部分において、生徒の学ぶ権利として不平等ではないか。 ・小中一貫校の兼務命令を全県的にお願いしたい。 ・学力、体力向上に関し研究開発的なことを市町村が取り組む場合に、県でもそれに対する支援を考えていただきたい。 |
| その他 | <p>【第2次教育振興基本計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の教育振興基本計画は、是非、長野県らしさが入っている、本当の長野県教育が目指すものは何かを示して欲しい。 <p>【災害安全教育について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災では、マニュアル通り行動して命を落とした子どもたちが大勢いる。先人の知恵がどのように活かされたか、例えば、三六災害の時はその場所はどうだったとか、何年前にはここがこうなったということを各学校、各地域が把握しておくべき。 ・「学校における災害安全の手引き」や学校安全計画等作成の参考資料は、出来るだけ早めに作ってほしい。 ・放射線量の測定は、保護者等の不安もあるので、定期的にやっていただけないか。もしくは各地方事務所ごとに機器を1台配置して要望のあった学校を測定する等の配慮をして欲しい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模町村、小規模校にプラスになるのは、教員に兼務辞令を出してもらうことで、先生が積極的に小中高を動かれて子どもを見ることが大切ではないか。 ・不登校等児童生徒支援の教員加配については、何年も同一校への加配継続ではなくて、それまで無かった未加配の学校に加配をお願いしたい。 ・教員から育休の申し出があったときに校長とともに代替の先生を探すのが、この地域(木曾)ではなかなか人が見つからないのが現実で、一層の支援をお願いしたい。 ・主幹指導主事の学校訪問で、1日2校訪問をこれからも継続するということですが、学校の状況を的確に把握して現場を指導していくために1日じっくり指導いただきたい。 ・南信教育事務所飯田事務所の体制充実をお願いしたい。 |